
昔語り

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

昔語り

【Nコード】

N0136M

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

沢田は、レコーダーをオンにした。既に一週間分の記録が入っていた。

「さて、どこまで話したかな？」

「昨日のお話の続きで結構ですから、お願いします」

「ああ、だから、どこまで話したかな？」

「村に地蔵が来たところまでです」

沢田は、レコーダーをオンにした。既に一週間分の記録が入っていた。

「それは、わしが産まれる遠い昔の話だからな。わしも聞いたただけの話だよ」

「結構です」

「地蔵送りだな。隣の下山田から地蔵が来たんじゃないよ」

「続けてください」

「その地蔵は神輿に乗っておつてな」

「地蔵は仏でしょ。地蔵菩薩。神輿は神様では？」

大場老人はむっとした。

「昔はその区別が曖昧だな。まあ、輿のようなものに乗せて担いで来たんじゃないよ。先頭は下山田の名主さんだな。羽織り袴でな…で、その後ろを大勢の村人が揃いの法被を着ての…」

沢田は黙って聞いている。

「地蔵送りは賑やかだったらしい。祭り騒ぎじゃ。届けてくれた村人に、御馳走をふるまつての」

「大場さんはそれをどなたからお聞きになりました？」

「おふくろから子供のころに聞いた」

「江戸時代の話だと思うのですが、それが語り継がれているわけですね」

「そうなるかな」

「で、地蔵は？」

「地蔵は村で一泊し、隣の北山田へ送ったとか。わしが聞いたのは、

そこまでじゃ。こんな話は何ぞ役に立つのかな？」

「昔語り本として編集し、郷土の歴史として出版します」

「山から天狗が降りて来た話もか？」

「一週間前の、あのお話も、非常によかったですよ」

「ギャラはいつ入る？」

「はあ？」

「とぼけないで」

「ギャラと言いますと」

「本になるんだろ？」

「そうです、予算が」

「それは、そっちの勝手な理屈じゃ」

沢田はレコーダーをオフにした」

「わしの話は無料か？ わしの働きはボランティアか？」

「はい」

大場老人はレコーダーを庭石にぶちつけた。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0136m/>

昔語り

2010年12月25日20時49分発行